

# 詩人大使クロイデル氏を正賓に パストール記念祭の盛況

## パ氏の功業を追慕して集まる 醫、理學界の碩學二百有餘名

近代に於ける自然科学史上に赫々の功業を残したる佛蘭西ルイ・パストールの牛誕百年祭は、豫定の通り去月廿七日午後四時半より、丸の内工業俱樂部樓下に催された。祭場を見渡せば、正面には燦やかなる金屏風を立て廻らし、中央稍々高く、パストールの畫像を安置し、左右に記念品として彼國研究所に贈呈さる可き限もあやなる花瓶一對を配し、自から襟を正さしむる様の神々しさを感ぜしめた。

先づ主賓として、詩人大使の名ある兵國駐在の佛蘭西大使クロイデル氏を正面に据え、續いて水野内相及び佛國駐在の日本大使にして目下歸朝中の子爵石井菊次郎氏を陪賓とし、壇上設けの椅子に導けば、古在(東大)、荒木(京大)等の大學總長入澤(東大)、佐多(阪大)、中原(日本)佐藤(東京)、吉岡(女醫)、等の學部長、校長を初め、各大學醫學部理學部教授、醫學科教授、醫學專門學校長、醫科專門學校長、各研究所長、研究所部長、其他パストールの業績に密接の關係ある醫學者、理學者、製造業者等二百餘名の來會者何れも肅然として着席した。劈頭、

### 長與又郎博士

は急激の如き拍手に迎へられて登壇、莊重なる句調を以て開會の辭を述べ、  
茲に、吾々の恩人として尊敬する世界的科學者パストール先生の、いや深

かき恩惠を感謝するの意に於て、同志相繼り、恰かし今年に先生誕生百年に相當するので、今日此處に百年祭を催ふました。然るに、斯くも盛大に、而か、豫期以上に數多の御來集を得たこと云ふ事は、誠に我々發起者一同の欣喜に堪へざる處でありませう。定めし、遠く佛國の地下に安眠せらる、パストール先生も、此の盛大なる追慕の會を見て、微笑を留まる、事でも有らうと存じます。

### 北里柴三郎博士

司會者としての挨拶を述べ、更に謹嚴なる態度を以て左の頌徳の辭を朗讀し。  
パストール先生は學術界の偉人にして、其生涯は奇蹟的大発見の連環なり。先生の功業を追慕するに、化學、生物學、醫學、醸造、實業、畜産の各方面に於て、往く所常に幽玄の真理を闡明し、到る所必ず研究上の新時代を劃せり。以て科學の進運に寄與せる所極めて多く、以て人生の慶福を増進せること頗る大なり。即ち先生は現代科學進設の巨匠にして、兼れて世界人類の絶大なる恩人なり。先生は獨り佛國々民の誇れるのみならず、又實に全人類の寶なり。先生既に亡しと雖も、地上の科學者は先生の偉業を履躓し、世界の人類は先生の遺澤を追頌す。佛東日本の國民、亦先生を敬仰するの情敢て譲らず。本日先生々誕の壹百年記念に當り、有志相繼りて精進する先生の學徳を欣慕し、遂に敬志を先生の靈前に捧げて聊か敬仰の至誠を表す。

### 贈呈式に移り

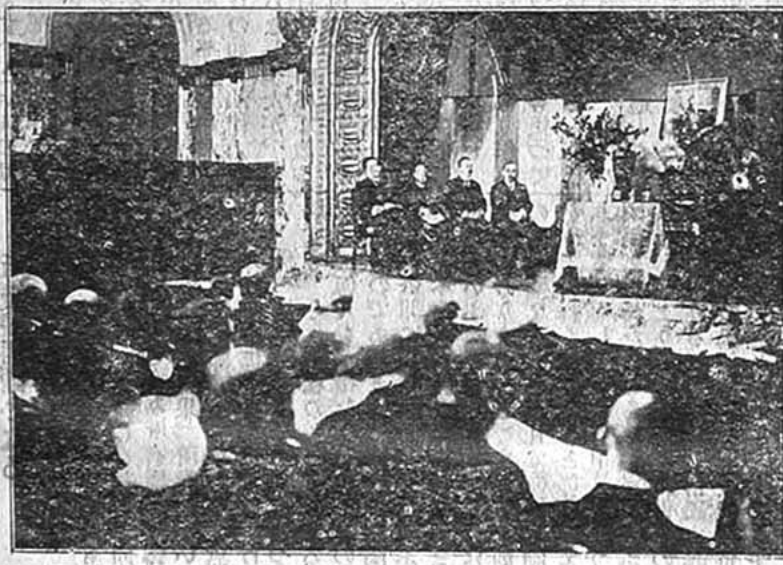
佛國々歌「マルセーユ」の劉嘆たる奏樂中に、同志の温かき心に包まれた記念品及パストール研究所への寄附金は、北里博士の手よりクロイデル氏に贈呈せられた。斯くて、其の答禮の意味から、佛大使クロイデル氏起ち、欣然として、感激の辭を述べた。  
諸君ルイ、パストールの百年祭に際し  
諸君はルイ、パストールに對して、象徴と賞賞の二つの形式を帯びたる賞讃を私に賜はりました。象徴と賞賞は御國の藝術が、最も貴く最も麗しく生産する所の輝くある一對の花瓶でありませう。即ち、巴里の研究所の中央に、一恰も探險者が自己の名前を附けた都會の其地下に埋葬されてある様に、埋葬されてある偉人の墓前で、御國の學者並に彼の発見の應用の恩惠を直接に受けた大多數の方々が、其恩人に對して限りなき感謝を述べる所の其一對の花瓶でありませう。賞賞の形式大に於ては、全世界にありませう。實質の形式大に於ては、全世界にありませう。實質の形式大に於ては、全世界にありませう。實質の形式大に於ては、全世界にありませう。

大正十一年十一月二十七日

マンブル、アツシシエ、ラカ  
デミール、グ、メザン  
醫學博士 北里柴三郎  
右終るや、海軍中將將部辰三郎氏はパストール研究所出身者を代表して「パストール」先生追慕の辭を朗讀し、夫より記念品、

緒なされ、而して數名の意見をす所の中央の研究所に於て、細菌學研究の發展に貢献する爲めに、佛國政府に寄附金を私に委託せられた所のかほしい賜でありませう。  
私は心の底から感謝を申上ります。  
ルイ、パストールの業績に就きましても、私より以上に偉大なる方々が後列申述べられるでありませう。唯私が彼れに代つて一凡ての國民の學者達に常に傳し、自己の研究所を開放しました彼れに代つて一尙又、彼れの仕事を相續して居る人々に代つて申上げる事の出来ませう事は、日本と佛國の學術上に於ける協力が、日々に益々密接に且つ親密になるのを見る事の希望であります。日本は細菌學研究の中に、特受する領域を見出され、而して其學者方は數多き不滅の発見に依つて名聲

(北里博士の頌徳の時朗讀)



### 松原理學博士

パストールは文政五年(一千八百二十二年)十二月二十七日ドルに生れました。而して、父は鞋業者でありませう。アルビア並にベザンソンの學校を経て、パリのエコレ、ノルマル・エコレに入り、同校のバワード及びパリ大學のデュマに化學を學び、アラフォックスに結晶學を學んだ人でありませう。  
酒石酸とバラ酒石酸(酒石酸)とが成分を等しくして、偏光面を旋轉する中用の有無を異にするを怪み、其結晶形を吟味して、酒石酸の結晶には一定の半完面あるに、バラ酒石酸の結晶には斯かる半完面なきことを見出し、旋光性の半完面に關係ありと見し、更に此等の酸のナトリウムアモウニウムを結晶せしめて、酒石酸には一定の半完面あるに、バラ酒石酸には、斯かる半完面の位置に左右を異にする二種あるを見出し、之を識別して普通の右旋光性酒石酸と、其の對蹠體なる左旋光性酒石酸とに分つを得たのでありませう。

私達が希望して居ります所の日本からの贈物は、研究資金の恩賜許りではありませう。尙と能く、知識、忍耐、熱誠の貢獻を希ふ事でありませう。  
全世界で特に右の美德を豊富に有して居られる御國から、其一部を私達の爲めに、特に割き與へられ仕事をパストール研究所に代つて祈るのでありませう。  
斯くて式は終り、直に記念の講演に移り、先づ、理學博士松原行一氏は、「パストール先生の化學方面」と題して、左の講演を試みた。



す。而して、嘉永元年（一千八百四十  
八年）にして、今日の立位化学の基礎  
をなせるものであります。

同年末にドイツ人のリッシーの物理  
學の教師となり、三ヶ月後なる嘉永二  
年（一千八百四十九年）の春、ストラス  
ブルグ大学の教授となつて化学を擔任  
し、安政元年（一千八百五十四年）新設  
のウィルヘルム大学の理學部長となり、翌  
四年、千八百五十七年、パリのエコル、  
ノーマンの理學科長となり、明治元年  
（一千八百六十八年）エコル、ナ、グワ  
ットワードの生理化学部長となり、明  
治二十二年（一千八百八十九年）初めて  
パストール研究所が出来て、専ら其の  
主眼となり明治二十八年（一千八百九  
十五年）九月二十八日サン、クルーに  
逝去したのであります。

ストラスブルグ大學に就任せる頃は酒  
石酸に関する研究を  
續け、又キニン並に  
シンコンよりキニ  
ン並にシンコンミ  
ンを得、此等を用  
いて、酒石酸を左  
右旋光性酒石酸に  
分割し、安政五年（一  
千八百五十八年）に  
は、酒石酸が糖酵作  
用を異にするこ  
と、此等に對する酸  
類の作用にも差異  
あること等を發見し  
て、左旋光性酒石酸を得  
此の三法は今に左  
右旋光性體の共存  
するものを分割する  
定法として用ゐられ  
てあります。

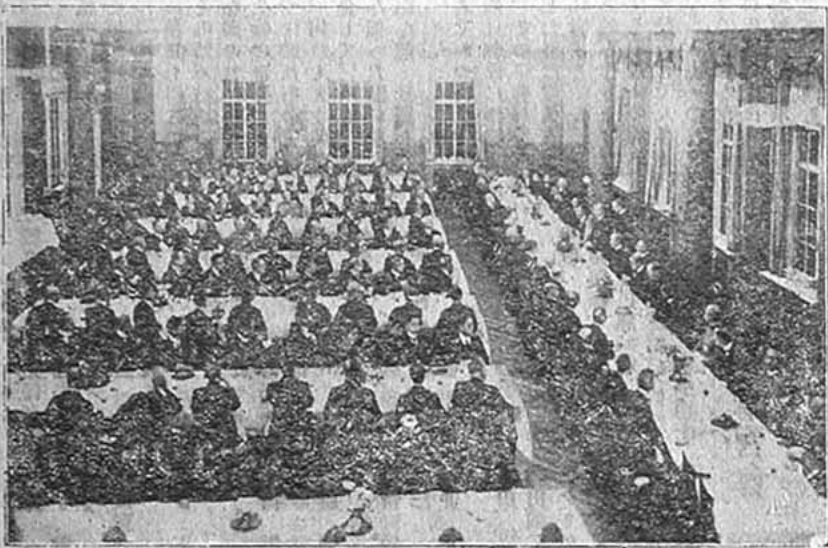
其、フリーセル油  
り不旋光性アミル  
ル、コロ、を分ち、酒  
石酸よりメソ酒石酸  
を得、アセチニユの  
アスパラギン酸並に  
林檎酸を吟味し、乳

糖よりガラクトースを得たのでありま  
す。リッシーが醸造業地方なる爲め、同  
大學に轉じてから上記の諸研究の傍ら  
漸く糖酵の研究に入り、更に治療醫學  
並に預防醫學の方面に入つた人であり  
ます。

### 鈴木農學博士

次に、農學博士鈴木梅太郎氏起つ  
て「パストール先生の醸造及釀業方  
面」の遺稿を説いた。

パストール先生の醸造に関する研究  
は、安政元年（一八五四年）、三十二  
歳、ウィルヘルムに新設せられたる理科大學  
（Königliche Hochschule）の教授  
及學長となられた以後である、當時  
糖酵作用に関する世人の知識は極めて



幼穉であつて、リビッツの唱導せる  
化學が優勢を占め、アルコール酸  
酵は「物の働きによるものでなく化學  
的變化である」と考ふるものが多かつ  
たのであります、先生は生活せる酵母  
菌がなければ、アルコール酸酵は決し  
て行はれざることを證明して、リビ  
ツの學說を覆へし、酵母の榮育、増  
殖、糖酵生産物に就て詳細なる研究  
を遂げ、糖酵學の基礎を確立せられた  
のであります。又牛乳の酸敗は乳酸菌  
によりて行はれ、麥酒、葡萄酒の酸  
酵も皆夫れ夫れ特種の微生物によつて  
行はれることを實驗的に明かにせられ  
るに至つたのであるから醸造の安  
全を期するには夫れ、特種の酵母を  
純粹に培養せねばならぬと唱へて、其  
業の革命を促したのであります。斯  
後ハヤシの單一細胞より純培養を  
行ふ方法（懸濁法）、コッホの扁平培養  
法等が考出せられて、醸造業が全く面  
目を一新たることは世人の熟知する  
處であります。

當時又生物が無生物より發生すとい  
ふ、所謂生物自然發生説を信するもの  
が多かつたが、先生は極めて簡單なる  
實驗により、肉汁、糖液等を煮沸滅菌  
したる後、空中から微生物の侵入を防  
止する時は、絶対に腐敗或は酸酵が起  
らぬことを證明して、自然發生説を屏  
息せしめました。此事實を基礎として  
先生は麥酒葡萄酒の火入貯藏法（パ  
ストーリゼーション）を案出せられ、以  
て貯藏中の腐敗によつて年々醸造家が  
蒙るべき巨萬の損害を防止することに  
成功したのであります。先生の是等の  
業績は其著書「葡萄酒の研究」(Etiologie  
des Vins 1866年)「麥酒の研究」(Etiologie  
des Biere 1876年)等に詳記し  
てあります。

穀類穀子(Pulver)に関する研究  
は、慶應元年（一八六五年）から明治二  
年（一八六九年）迄即ち四十三歳より四  
十七歳まで約五年に亘つて居ります。  
萬延元年（一八六〇年）頃より歐洲各地  
に一種の穀類が流行して、佛國は其害  
を蒙ること最も甚しく、同國の重要

産物たる絹糸の産額は、爲に四分一以  
下に減りました。先生は朝鮮の朝鮮に  
より、此穀類の危懼を救ふべく、慶應元  
年（一八六五年）六月に穀類の最も猖獗  
を極むるアレー町に赴き、滞留三ヶ月  
して其病原體（穀類穀子）を發見せられ  
爾來其性狀傳染経路等に就て詳細の観  
察を遂げ、遂に該病原體に完全無缺と  
稱せらるる穀類穀子法を案出せられた  
のであります。明治三年（一八七〇年）其  
業績を録したる「穀類の研究」(Krankheit  
des A. Mandchou, Verne, 1870)を皇后  
に捧呈すると共に、世上に發表せられ  
た、斯くて一旦衰微せる佛國の穀業も  
再び恢復に向つたのであります。此偉  
勳に對して、佛國政府より終身年金を  
下賜せられたのであります。

此發見は單に佛國のみならず、全世  
界の穀業を穀類穀子の被害より救ふた  
ものであつて、就中其恩澤に浴すること最  
も多きは佛國の穀類穀子に於て日本であり  
ます。

先生は其「穀類の研究」中に「吾人は  
地球上よりあらゆる傳染病を一掃し得  
べし」と云はれて居ります。後日醫學  
上に関する幾多の成功は、當時既に先  
生の胸裡に畫かれて居つたものと思は  
れます。

更に三浦謹之助博士は、同先生の  
醫學方面に就いて左の如く説いた、

### 三浦醫學博士

パストール先生は化學者にして、嘗  
て學者を診察し、又は刀を取て手術を  
行つたことは無いのであります。醫學  
方面に多大の貢獻をされたのは、先  
生が微生物を研究された事に依るので  
あります。而して此の微生物の研究は  
既に酒石酸と葡萄酒の研究に「ペニシ  
リウム、ケラタム」なる酸を應用せ  
しに始まり、其の酢酸、乳酸、牛酪  
酸、葡萄酒と麥酒の糖酵を研究し、  
葡萄酒と麥酒の變化は酵母以外の微生  
物が、其の中に發生することを知つた  
のであります。次で「エヂン」と稱  
する病より、家畜の肺病、鶏の虎列  
刺及び豚の肺病の病原及び其の防治

瘵に進み、遂に狂犬の治療に於て一  
新機軸を出すに至つたのであります。  
然れども、パストール先生の偉業は  
此の種々なる病原菌の發見ではなくし  
て、第一は宇宙の原則として自然發生  
(Generatio aequivoca)なるもの、存在  
せざることを證明された事にあるので  
あります。則ち生物は自然に發生する  
ものに非ずして、常に母の生きたるも  
のより生ずること云ふことは、パストール  
先生の實驗によつて始めて明かになつ  
たのであります。而して、一度此の自  
然發生論の破壊せられしより以來、病  
毒傳染の経路も、亦追究し得可きの光  
明を得、英國のロスター先生は此れを  
外科に應用し、菌邊のコッホ先生は、  
此れに由りて現今の微生物學の根據を  
築き、種々なる病原菌の發見を爲せる  
に至つたのであります。

又パストール先生の第二の偉業は、  
彼の英のシェンナー先生の發明した種  
痘の現象に倣ひ、各種傳染病の病原の  
毒力を一定の方法によつて、漸次減弱  
せしめ、此を動物又は人間に接種し、  
免疫性を興ふる方法を講究せしにあり  
ます。これ現今の「ワクチン」療法及び  
血清療法の基であります。

最後に、文學博士姉崎正治氏は、  
「ルイ、パストールとフランス魂」と  
題して次の講演があつた。

### 姉崎文學博士

早くに國民的統一の基礎の上に文化  
を築き上げたフランス人には、フラン  
ス魂といふべき氣風が發達し、且つ  
ローマ文化の正統だといふ抱負がありま  
す、その氣風を概括しては、結合  
の「Unité」の感で、小は家庭の結合、  
地方的の一致から、民族に及び、それが  
又人類全體（humanité）に及び、且つ宗  
教的色彩を帯びては宇宙感ともいふべ  
きものであります。それをパストール  
自らは「notion de l'Unité」を唱へて  
居ります。パストールの一生は、此  
等の結合が能く現はれ、彼れの一宗  
は擧げて彼れの學術的事業に對してゆ  
かしい同情を表し、彼れは師友弟子の

間に、友情と共同との深い精神を示して居りました。諸種傳染病の予防や治療に對するマストロールの熱心には病人を通じて人類全體の福を自ら感じたいと、その中に發見し得るのであります。且つ又、その始め結晶の研究で物理的化學の源を開いた仕事から醸造酒精の研究で微生物の世界に入り、終には病原菌や放射射の方面で偉功を奏するまで、何れも天才的透明と精確な實驗と相合して、萬有の中に躍動する生命生氣を捕へた點には、實にフラスコ人の特徴を能く發揮してゐるのであります。

マストロールは科學者であつたが、彼は人類經驗の奥には尙ほ無限に聯絡するものがあるを信じ、その信仰が彼れの科學的研究を刺激した外に、又人類に對する愛情、宇宙に對する結合感として、彼のフラスコ魂を作り上げたのであります。さればその最後の病中愛讀したのは、福音と慈愛とで大事業をなした聖フランシスコの傳記でありました。彼はフラスコの傳記と共に人類を愛し、科學的研究に身を委ねると共に、眞理を無究に追求した偉人であり、フラスコの生むべき偉人の投票で、マストロールがナポレオンを凌駕して、第一位を占めたのは決して過譽でないのであります。

右至講演が終るや、長與博士再び登壇、恙なく今日の會の終つた事を悦ぶとして、閉會の辭を述べ、斯くて床かしくも亦華やかなるマストロール百年祭は閉ぢられた、時に午後六時半、一同は夫れより食堂に入つた。

### 日本小兒科東京地方會

同會では、去る廿九日午後六時より、四谷區西信濃町慶大醫學部階級講堂に於て、第八十回講話會を開催した、演説左の通り。  
▽奥國小兒給食事業トヘルケト氏ト

- ▽簡單ナル早産兒保護器ノ供覧 醫學博士 井手 敏男
- ▽出血性素因患兒ノ一剖檢例 醫學士 鎮目尊之助
- ▽一積の消化不眞性昏睡 醫學士 紋谷 正男
- ▽部分的巨態症 醫學博士 太田 孝之
- ▽乳兒中毒症ニ於ケル一所見 醫學博士 藤田仙三郎
- ▽歐州ニ於ケル都市衛生ノ施設ニ就テ 醫學士 齋藤 知二
- ▽結節性「ロイマチスムス」ノ一例 醫學士 宇留野野彌
- ▽先天性梅毒診療ニ關スル二三 醫學士 柳井 正清
- ▽「ミアスマチー」ノ一例 醫學博士 栗山 重信
- ▽供覧 模製、眼及皮膚チフテリア、梅毒疹、癩癬、寫眞及標本、氣管技術巴腺結核、初生兒破傷風、進行性筋萎縮症(假性肥兒症) 醫學博士 瀨川 昌世

### 東京醫學會講習會

同會下谷、麴町等各支部の主催に係る第二回醫學講習會は、頗る盛會にて、講習生百七十餘名に達し、去月廿六日から尙ほ来る九日迄隔日に午後七時より九時迄で、神田區泉橋慈善病院に開講の筈である、講師並に科目左の如し。

- ▽實地醫家に必要なる血液學 醫學博士 三田 定則
- ▽結核以外の呼吸器疾患及びリウマチ病 醫學士 稻田 龍吉
- ▽同上整理解剖示説 醫學博士 福士 政一

### 日本醫專の雄辯會

日本醫專校友會辯論部では、去月廿五日午後客時半から、同校講堂に於て、都下各大學專門學校雄辯大會を開催、頗る盛、であつたと。

### 帝國醫師名簿改版

帝國醫師名簿發行所では、先般來計畫中であつた帝國醫師名簿の改版も此程全部完了して、帝國四萬の開業醫師君に見え事になつた。紙數約七百頁に亘り、菊版、横綴、總クロース製と云ふ、頗る現代的裝幀で特に内容中追録として臺灣、朝鮮、樺太、關東洲をも添へ、先づ居ながらにして全國同業者名を知られる譯である、因に本名簿一部代金は郵税共金五四で、東京麴町區大手町帝國醫師名簿發行所宛申込みあれば、速刻送本する由致して。本を獎む。

### 懸賞募集(第廿一回)

### 此の診斷は如何?

- ▽締切 明年一月五日。
- ▽發表 本誌一月十五日號誌上
- ▽用紙 封書葉書を不問。
- ▽宛名 本社調査部懸賞係宛。但し第何回答案と御明記を願ひます。
- ▽匿名 誌上發表は凡て匿名とす。正解者五名に限り薄謝を呈す(正解者多き時は抽籤に依る)。
- ▽薄謝

### 新問題

患者 十八才の女  
家族歴に特記すべきものはない。五才の時に麻疹を経過し、十四才の時月經來潮し、以來毎月順調、中等量で四五日間繼續する。十七才の時結婚した。  
現症 現症の起源 今年の三月十二日から五日間月經があつて、此後閉止し四日頃惡疽の症狀があつた。五日頃から少し宛血性を帯びた分泌物が時々あつて、その状態が續いて六終頃には月經が少なくなつた。七

日に成つて診察を受けに來た。現症、診察すると、子宮底は臍高に達し柔らかく、唯左の下腹部に限局性に幾分堅くして、その部分だけ輕度の疼痛がある、波動及びパロットマンは明らかでない。  
内診すると、膈及び子宮腔部は軟化して壓痛はない。その時輕度の出血を見た。  
著明なる子宮腔部の着色がある、子宮腔部の腐爛、或ひは頸管部に於けるポリープなどは證明しない。尿には輕度の蛋白があつた。  
知覺異常浮腫等はない、その他肺臟心臓などは全身的に障害を見ない。此診斷如何?

### 第十八回答案發表

「十月二十五日發行(第六十四號)掲載の分」

### 診斷

▽再歸性心内膜炎 心臟の擴大して居る事、及收縮期雜音は到る處で聞へるが、擴張期雜音が他の所よりも心基底で一番よく聞へる事、及び其の脈搏が速脈である事、及毛細管脈搏のある事よりして、先づ大動脈瓣閉鎖不全症のある事は斷言が出来ます。

この患者には不規則な弛張型の熱があります。單純な瓣膜障礙には發熱はない筈であります。瓣膜障礙が高度になると、色々の合併症が起り易い、第一に氣管枝炎であります。此の患者には之は認められませぬ。即ち呼吸器には異常がありません。この患者には脾臓も肝臓も大きくありません。全く熱發の源を何處にも他に求めることが出来ないのであります。即ち診斷は再歸性若くば再發性心内膜炎とつけるのが穩當で

### 講評

淋毒性心内膜炎と診斷された方がありますが、餘り考へ過ぎたためと思はれます。然し乍ら此際全然間違ひでないと思ひます。  
心内膜炎と廣く診斷なさつた方もありましたが、急性又は慢性なるかを明記されなかつたのが残念であります。

### 入賞者

- 左の五氏が當籤しました。
- 横濱 T Y 生君
- 朝鮮 T O 生君
- 山形 E S 生君
- 島根 H Y 生君
- 北海道 大内 生君

### 選外優秀

- 大牟田 竹旬 生君
- 泉州 蚊多 堂君
- 山梨 渡邊 君
- 福岡 市外 居士君
- 福岡 ほうろ 魚生君
- 山口 林 生君
- 愛知 S T 生君
- 大隅 M 生君
- 磐城 双葉 牛君